

遺伝子組換えによる花粉発生制御技術等の開発（新規）

【平成20年度概算決定額 75,000（0）千円】

事業のポイント

新たな花粉症対策品種の開発を効率的に進めるため、遺伝子組換え技術を用いた花粉発生制御技術を確立します。

- ・ 少花粉すぎ品種等の開発に当たっては、これまで雄花着花性を調査し、形質の優れた樹木の中から花粉症対策品種の選抜を進め、122品種を開発してきました。
- ・ 開発された品種は、成長及び形質等が優れているものの、地域的に偏っていることから、森林所有者等の好む地域に馴染んだ品種の無花粉化など新たな手法による品種開発が必要となっています。

政策目標

遺伝子組換えによる花粉発生制御技術を確立し、地域に馴染んだ品種の無花粉化を進め、花粉発生源対策に貢献します。

<内容>

1. 組換え樹木の開発に必要な遺伝子の単離と発現機構の解明を行います。
複数ある雄性不稔遺伝子を単離し、その発現機構や発現特性の解明を行います。
2. 遺伝子組換え技術を用いた花粉発生制御技術を開発します。
雄性不稔に結び付く花芽形成や花粉形成に係わる遺伝子の発現を制御する技術を開発します。

<委託先>

民間団体

<事業実施期間>

平成20年度～24年度（5年間）

[担当課：林野庁研究・保全課]